

フェデックス、香港離れ

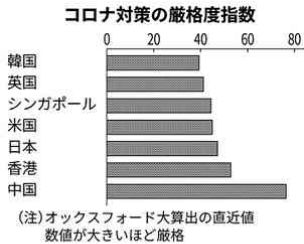
乗員移転、「ゼロコロナ」に企業悲鳴

【香港＝木原雄士】香港拠点の企業が新型コロナウイルスを完全に抑え込む「ゼロコロナ」政策に悲鳴をあげている。米物流大手フェデックスは防疫措置が厳しすぎるとして、香港の貨物機パイロットの完全移転を決めた。キャセイパシフィック航空も12月の旅客便を大幅に減らす。入境規制の緩和と見通しが立たず、金融や観光など幅広い産業の活力低下が避けられない。

防疫措置緩和 見通せず 航空ハブの地位低下も

2020年の航空貨物取扱量		
順位	空港名	万ト
1	メンフィス（米）	461
2	香港	446
3	上海浦東	368
4	アンカレジ（米）	315
5	ルイビル（米）	291

（出所）国際空港評議会



「グローバルな事業環境が変化の中で香港当局からの要求を考慮し、パイロット移転を決めた」。フェデックスは、因に香港のコロナ対策をあげた。1月に香港居住だったパイロット180人を米国に移したと報じられたが、厳格なコロナ対策の出口が見えないため完全移転に踏み切った。フェデックスは1992年にアジア太平洋の地域総括本部をハワイから香港に移転し、地域の中心拠点として長年運用してきた。香港国際空港は航空貨物の取扱量で長く世界1位で、2020年は2位だった。フェデックスは11月にはドイツ帰りのキャセイの貨物機パイロットが相次いで感染し、同僚130人が一時、隔離施設に収容された。林鄭月娥（キャリー・ラム）

行政長官は「同じ事例が起れば、香港から貨物パイロットがいなくなる」と危機感を示す。キャセイは運航を維持するため、乗組員が2〜4カ月間、香港の自宅に戻らない勤務体系を検討している。25日には「運用や渡航制限によって計画通りに運航できない」として、12月の香港到着の旅客便を大幅に減らすと発表した。

バーバリーもコロナ前に中国からの観光客でにぎわっていた小売店も厳しい。化粧品小売りの莎莎国際控股（ササ・インターナショナル）は4〜9月に香港で10店舗を閉鎖した。香港紙によると、英高級ブランドのパバーリーも世界一賃料が高いといわれた羅素街（ラッセル・ストリート）の旗艦店をたたむ。同地域からの撤退は3店目だ。

退は3店目だ。香港の小売売上高は2月以降、前年同月比プラスが続くものの、コロナや大規模デモ前の18年と比べると7割程度の水準にとどまる。18年に6500万人に上った中国本土などからの訪問客が激減したためだ。1〜9月

香港のコロナ対策が厳しすぎるとの声は航空業界以外からも出ている。金融の業界団体、アジア証券業金融市場協会（ASIFMA）の調査では、銀行や資産運用会社の73%が「香港で人材獲得が困難」と答えた。ここ半年、外国からの輸入事例を除く香港の新規感染はほぼゼロだが、政府は変異型の流入を懸念して、入境時の強制隔離を続ける。ワクチン接種済みでも、米英から来た人は3週間、日本から来た人は2週間のホテル隔離が必要だ。隔離の免除対象を減らすなど対策は厳しくなっている。

英オックスフォード大学は「学校閉鎖」や「渡航制限」などの指標からコロナ対策の厳格度指数を算出している。主要国で中国がもっとも厳しく、香港は日本や米英より厳格だ。「ウィズコロナ」の方針のもと、往来規制を緩めてきたシンガポールなどは正反對だ。

香港がゼロコロナにこだわるのは、中国本土との往来再開を優先するからだ。香港には中国事業を手掛ける企業が多く、本土と頻繁に行き来していたビジネスパーソンが多い。本土との境界を開くには中国式のゼロコロナを受け入れるしかない。

香港中文大学航空政策研究センターの袁志業主任は「香港は世界と中国本土に挟まれて難しい状況にある」と話す。欧米型のウィズコロナに移行すれば世界の航空需要を取り込めるものの、ゼロコロナを続ける巨大な本土市場を失いかねない。袁氏によると、コロナ前の旅客便の3分の1は本土から来ていた。ただ、地元経済界が切望する中国本土との往来再開は不明だ。中国・香港政府は1日あたりの訪問客数に上限を設ける限定的な再開を探る。ササの郭少明主席は「再開しないよりはいいが、楽観的にはならない」と話す。

香港は「つながる都市」として、世界中からのアクセスの利便性を売りにしてきた。厳しい対策でコロナを抑え込み、日常生活はほぼ正常化したものの、世界とつながる魅力は失われたままだ。世界ではコロナ対策を緩和した国で感染者が急増するケースが目立つ。中国は当面ゼロコロナ政策を続ける見通しだ。中文大の袁氏は「香港にとって中国本土市場は非常に重要。いまのところ中国の政策に従うしかない」と話す。

本土往来を優先
香港がゼロコロナにこだわるのは、中国本土との往来再開を優先するからだ。香港には中国事業を手掛ける企業が多く、本土と頻繁に行き来していたビジネスパーソンが多い。本土との境界を開くには中国式のゼロコロナを受け入れるしかない。

香港中文大学航空政策研究センターの袁志業主任は「香港は世界と中国本土に挟まれて難しい状況にある」と話す。欧米型のウィズコロナに移行すれば世界の航空需要を取り込めるものの、ゼロコロナを続ける巨大な本土市場を失いかねない。袁氏によると、コロナ前の旅客便の3分の1は本土から来ていた。ただ、地元経済界が切望する中国本土との往来再開は不明だ。中国・香港政府は1日あたりの訪問客数に上限を設ける限定的な再開を探る。ササの郭少明主席は「再開しないよりはいいが、楽観的にはならない」と話す。